

詩篇 23 篇

「全生涯のための詩篇」

23:1 【主】は私の羊飼いです。私は、乏しいことはありません。

23:2 主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。

23:3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。

23:4 たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。

23:5 私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。

23:6 まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、【主】の家に住まいましょう。

はじめに

詩篇 23 篇は 150 篇ある詩篇の中でも人々にもっとも親しまれている詩篇です。

世界中で、葬儀や感謝の式典などで引用されます。

しかし、この詩篇は葬儀で遺族を慰めるためだけにあるものではありません。この詩篇は私たちの全人生に役立つ詩篇です。

人生のさまざまなステージで、どんな必要があるにせよ、この詩篇のみことばは私たちを励ましてくれます。

この詩篇は羊の行動をよく理解した羊飼によって書かれたのですが、ご自身の羊に配慮し、働きのために備えてくださる「大牧者」（イエス・キリスト）にはかないません。

ヘブル 13 : 20-21

13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、

13:21 イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

詩篇 23 篇は、イエスが私たちのために「私のいのちの日の限り」してくださる事柄に焦点を置いています。

ダビデはこの詩篇を晩年になって書いたと考えられます。おそらく、息子アブシャロムが謀反を起こした頃に書かれたと聖書学者は考えています。

この詩篇の中で、ダビデは自分の人生と働きの中で経験したつらい出来事に触れています。

主であり備え主であるイエスとともに人生の重荷を負い、人生の戦いを戦い抜いたクリスチャンこそ、この詩篇を誰よりもよく理解できるでしょう。

羊と羊飼いは旧約聖書の随所に登場するテーマです。

神がイスラエルの牧者であるというイメージは、創世記から始まって聖書全体に見られます。

約束された救い主イエスは牧者とみなされました。

エゼキエル書 34 : 11-16

34:11 まことに、神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは自分でわたしの羊を捜し出し、これの世話をする。

34:12 牧者が昼間、散らされていた自分の羊の中において、その群れの世話をするように、わたしはわたしの羊を、雲と暗やみの日に散らされたすべての所から救い出して、世話をする。

34:13 わたしは国々の民の中から彼らを連れ出し、国々から彼らを集め、彼らを彼らの地に連れて行き、イスラエルの山々や谷川のほとり、またその国のうちの人の住むすべての所で彼らを養う。

34:14 わたしは良い牧場で彼らを養い、イスラエルの高い山々が彼らのおりとなる。彼らはその良いおりに伏し、イスラエルの山々の肥えた牧場で草をはむ。

34:15 わたしがわたしの羊を飼い、わたしが彼らをいこわせる。——神である主の御告げ——

34:16 わたしは失われたものを捜し、迷い出たものを連れ戻し、傷ついたものを包み、病気のもの
を力づける。わたしは、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは正しいさばきをもって彼らを
養う。

この詩篇の学びを始める前に、羊について私たちが知っておくべきことが5つあります。

1. 羊は無防備な動物である。
2. 羊はすぐ迷子になる。
3. 羊は常時世話を必要とする。
4. 羊は前から導く必要がある。他の家畜のように後ろから押すことはできない。
5. 聖書の時代の羊には、一頭一頭を知り尽くした羊飼いがいて、なついていた。

ヨハネ 10 : 1-6

10:1 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門から入らないで、ほか
の所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。

10:2 しかし、門から入る者は、その羊の牧者です。

10:3 門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで
連れ出します。

10:4 彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声
を知っているのです、彼について行きます。

10:5 しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。
その人たちの声を知らないからです。」

10:6 イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたことが何
のことかよくわからなかった。

クリスチャンの羊飼いによって書かれた、詩篇 23 篇を見事に解説してくれる本はたくさんありま
す。私もこれまでにそのような本を使ったことがあります。

詩篇 23 篇のメッセージは何度も語ったことがあるので、今回は少し違った角度から見てみるこ
とにしました。この詩篇の真理を明らかにするとともに、この詩篇に映し出されたヘブル語の神の
名にスポットを当てていきます。

この方法は、神と神の備えに注目する助けとなるでしょう。

1. 神は私たちの必要を備えてくださるお方。(1 節)

ダビデは 1 節で、神が自分の「アドナイ・イルエ」だと宣言しています。この名は、創世記
22 : 14 に登場します。それは、「主が備えてくださる」という意味です。

創世記 22 : 1-14

22:1 これらの出来事の後、神はアブラハムを試練に合わせられた。神は彼に、「アブラハム
よ」と呼びかけられると、彼は、「はい。ここにおります」と答えた。

22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤ
の地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイ
サクをわたしにささげなさい。」

22:3 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、ふたりの若い者と息子イサクとをいっしょに
連れて行った。彼は全焼のいけにえのためのたきぎを割った。こうして彼は、神がお告げに
なった場所へ出かけて行った。

22:4 三日目に、アブラハムが目を上げると、その場所がはるかかなたに見えた。

22:5 それでアブラハムは若い者たちに、「あなたがたは、ろばといっしょに、ここに残って
いなさい。私と子どもとはあそこに行き、礼拝をして、あなたがたのところに戻って来る」
と言った。

22:6 アブラハムは全焼のいけにえのためのたきぎを取り、それをその子イサクに負わせ、火
と刀とを自分の手に取り、ふたりはいっしょに進んで行った。

22:7 イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」すると彼は、「何だ。イサク」と答えた。イサクは尋ねた。「火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。」

22:8 アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。

22:9 ふたりは神がアブラハムに告げられた場所に着き、アブラハムはその所に祭壇を築いた。そうしてたきぎを並べ、自分の子イサクを縛り、祭壇の上のたきぎの上に置いた。

22:10 アブラハムは手を伸ばし、刀を取って自分の子をほふろうとした。

22:11 そのとき、【主】の使いが天から彼を呼び、「アブラハム。アブラハム」と仰せられた。彼は答えた。「はい。ここにおります。」

22:12 御使いは仰せられた。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」

22:13 アブラハムが目を上げて見ると、見よ、角をやぶにひっかけている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。

22:14 そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「【主】の山の上には備えがある」と言い伝えられている。

この個所で、神はアブラハムを試されました。アブラハムが人生のすべてにおいて神を信頼しているかどうかを試されたのです。

自分はクリスチャンだからイエス・キリストの救いの業を信じていると口で言うことと、実際に人生のすべての備えを神に頼って信頼することは別です。

ダビデはここで、神がすべての必要を備えてくださると確信しているので、何も欲しいものはないと言っています。

私はこれまでの経験から、多くのクリスチャンは必要のないものを欲しがり、本当に必要なものを欲しがらないということに気づきました。

どういうことかと言うと、苦しみや困難を求める人はいません。

けれども、神はそういう経験を私たちの人生に許されます。そういう経験が、神との関係を深めてくれるからです。そうすれば、神に伺わずに自分の考えで物事を行うことをせず、神の備えに頼るようになります。

私にはこれが必要だと自分で思い込んでいるものを求めて祈ることがありますが、その求めているもの自体が、神と神のみこころから自分を引き離す要因になる場合が多々あります。たとえば、求めていた職に就いてみると、時間がすべて取られて神に仕える時間がまったくないという結果になる場合もあります。

私たちはよく、自分の祈りに自力で答えようとします。すると、神のみこころから離れてしまうことがあります。

ダビデは自らの人生を神に明け渡しました。そして、必要な物は何もないと気づいたのです。神がダビデの必要を満たしてくださるからです。

私がこれまで 34 年間の経験からわかったのは、神が私たちの必要に対して惜しみなく与えてくださる一方、私たち自身は周囲の人たちの必要に対してそれほどまでに気前よくはなれないということです。

神の助けによって、私たちが周囲の人たちに対する神の備えとなれますように。そして、他の人たちの必要に対して祝福の器となれますように。特に福音宣教に仕えている人たちに対してそうなりますように。

主が私たちの羊飼いなら、私たちはすべての必要を主が備えてくださると信頼できます。

2. 「平安」を与えてくださる神 (2 節)

羊は、ストレスのない状態でないと横になって眠りません。また、流れの速い川から水を飲むことはありません。

流れの速い川で水を飲むと、羊は具合が悪くなるのです。

この個所でダビデは、神が「アドナイ・シャロム」だと宣言しています。それはヘブル語で「神は私たちの平安」という意味です。ただしヘブル語では、この言葉は問題が解決した後の一時的に平和な状況だけを指すものではありません。神に従い、神のみこころが自分の人生でなされることを望むなら、全人生をとおして「平安」を得られるという意味です。クリスチャン信徒の平安は、問題のないことではありません。クリスチャンは、問題があっても平安でいられます。

士師記 6 : 11-24

6:11 さて【主】の使いが来て、アビエゼル人ヨアシュに属するオフラにある櫛の木の下にすわった。このとき、ヨアシュの子ギデオンはミデヤン人からのがれて、酒ぶねの中で小麦を打っていた。

6:12 【主】の使いが彼に現れて言った。「勇士よ。【主】があなたといっしょにおられる。」

6:13 ギデオンはその御使いに言った。「ああ、主よ。もし【主】が私たちといっしょにおられるなら、なぜこれらのことがみな、私たちに起こったのでしょうか。私たちの先祖たちが、『【主】は私たちをエジプトから上らせたではないか』と言って、私たちに話したあの驚くべきみわざはみな、どこにありますか。今、【主】は私たちを捨てて、ミデヤン人の手に渡されました。」

6:14 すると、【主】は彼に向かって仰せられた。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」

6:15 ギデオンは言った。「ああ、主よ。私にどのようにしてイスラエルを救うことができますでしょう。ご存じのように、私の分団はマナセのうちで最も弱く、私は父の家で一番若いのです。」

6:16 【主】はギデオンに仰せられた。「わたしはあなたといっしょにいる。だからあなたはひとり打ち殺すようにミデヤン人を打ち殺そう。」

6:17 すると、ギデオンは言った。「お願いします。私と話しておられるのがあなたであるというしるしを、私に見せてください。」

6:18 どうか、私が贈り物を持って来て、あなたのところに戻り、御前にそれを供えるまで、ここを離れないでください。」それで、主は、「あなたが戻って来るまで待とう」と仰せられた。

6:19 ギデオンはうちに入り、一匹のやぎの子を料理し、一エパの粉で種を入れないパンを作り、その肉をかごに入れ、また吸い物をなべに入れ、櫛の木の下にいる方のところに持って来て、供えた。

6:20 すると、神の使いはギデオンに言った。「肉と種を入れないパンを取って、この岩の上に置き、その吸い物を注げ。」それで彼はそのようにした。

6:21 すると【主】の使いは、その手にしていた杖の先を伸ばして、肉と種を入れないパンに触れた。すると、たちまち火が岩から燃え上がって、肉と種を入れないパンを焼き尽くしてしまった。【主】の使いは去って見えなくなった。

6:22 これで、この方が【主】の使いであったことがわかった。それで、ギデオンは言った。「ああ、神、主よ。私は面と向かって【主】の使いを見てしまいました。」

6:23 すると、【主】はギデオンに仰せられた。「安心しなさい。恐れるな。あなたは死なない。」

6:24 そこで、ギデオンはそこに【主】のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエゼル人のオフラに残っている。

このギデオンの話は、つらく困難な状況でも神が聖霊をとおして「平安」を与えてくださることを示す例です。

神は、どんな悩みや問題があっても平安を与えることのできるお方です。けれども、そのお方ではなく問題に注目してしまうと、平安を簡単に失ってしまいます。

英国で最後に牧師をしていた教会に、病気で寝たきりの男性がいました。病状が良くなる兆しはありません。その男性はうつ状態になりました。

私は彼に「そのうつ症状に効く薬がありますよ」と言いました。すると彼は「それは何ですか」と尋ねました。それで私は答えました。「残りの人生をイエスの働きのために仕えるのです。」彼は、寝たきりの状態でどうやって仕えるのか、と戸惑っていました。

それで私は、寝たまま祈りの働きを始めたかどうかと勧めました。

そして、ノートに祈りをすべて書き残すように言いました。

当時私は、この男性を励ますために週に一度訪ねていました。彼は結局うつ状態から抜け出し、神は人々のために祈る人としてこの男性を素晴らしいかたちで用いられました。

けれどもある日、私が訪ねていくと、ずいぶん心配そうな様子でした。

父親の命日が近づいているということでした。

自分も父親の命日に死ぬのではないかと不安になっていたのです。

私は、彼がその日に死ぬことは絶対にないと言いました。

すると心が平安になり、私の言葉を信用してくれました。

けれども、私はただ、人の死ぬ時を定められるのは神だという聖書のみことばを信頼していただけです。（詩篇 31 : 15）

自分の死ぬ日がわかったと思ったら、それは間違いだと確信できます。私たちは神ではないからです。結局この男性は、その6か月後、眠っているうちに静かに息を引き取りました。

今どんな問題を抱えていたにしても、神に目を向けましょう。そうすれば、神が平安を与えてくださいます。

ペテロ第一 5 : 6-7

5:6 ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

3. 私たちを癒やし、人生を立て直してくださる神 (3 節)

この箇所から、ダビデが感謝をもって人生を振り返っているのは明らかです。

ダビデは、神が癒やし、人生を立て直してくださったことを感謝しています。

ダビデにとって、神は「アドナイ・ロフェ」でした。このヘブル語は、「癒やされる主」という意味です。

この表現が最初に登場するのは、出エジプト記 15 : 26 です。

出エジプト記 15 : 26

15:26 そして、仰せられた。「もし、あなたがあなたの神、【主】の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行い、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上に下さない。わたしは【主】、あなたをいやす者である。」

ここでは神の命令に従うことで得られる体の癒やしを指しています。

クリスチャン生活で神に従っていないと、心や体に支障をきたす結果につながるようになります。

しかし、私たちが主に立ち返れば、主は私たちの人生を立て直すことができになります。

ダビデは神と神のご計画を求める心の持ち主でしたが、過ちを犯して大きな代償を払うことになりました。

今ここで詩篇 51 篇を読んでおくと役に立つでしょう。これはダビデの悔い改めの祈りだからです。そのように祈った後、彼は神の癒やしと回復を経験しました。

詩篇 51 篇

51:1 神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください。

51:2 どうか私の咎を、私から全く洗い去り、私の罪から、私をきよめてください。

51:3 まことに、私は自分のそむきの罪を知っています。私の罪は、いつも私の目の前にあります。

51:4 私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。それゆえ、あなたが宣告されるとき、あなたは正しく、さばかれるとき、あなたはきよくあられます。

51:5 ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。

51:6 ああ、あなたは心のうちの真実を喜ばれます。それゆえ、私の心の奥に知恵を教えてください。

51:7 ヒソプをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。

51:8 私に、楽しみと喜びを、聞かせてください。そうすれば、あなたがお砕きになった骨が、喜ぶことでしょう。

51:9 御顔を私の罪から隠し、私の咎をことごとく、ぬぐい去ってください。

51:10 神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。

51:11 私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。

51:12 あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。

51:13 私は、そむく者たちに、あなたの道を教えましょう。そうすれば、罪人は、あなたのもとに帰りましょう。

51:14 神よ。私の救いの神よ。血の罪から私を救い出してください。そうすれば、私の舌は、あなたの義を、高らかに歌うでしょう。

51:15 主よ。私のくちびるを開いてください。そうすれば、私の口は、あなたの誉れを告げるでしょう。

51:16 たとい私がささげても、まことに、あなたはいけにえを喜ばれません。全焼のいけにえを、望まれません。

51:17 神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。

51:18 どうか、ご恩寵により、シオンにいつくしみを施し、エルサレムの城壁を築いてください。

51:19 そのとき、あなたは、全焼のいけにえと全焼のささげ物との、義のいけにえを喜ばれるでしょう。そのとき、雄の子牛があなたの祭壇にささげられましょう。

神は癒やしの働きに尽力しておられます。傷つき戸惑う私たちの人生に、心の癒やしをもたらすことを深く願っておられます。

今、もしあなたに過去の出来事や解決していない問題が原因で心に傷があるなら、神はあなたの心を癒やそうと言ってくださいます。

ダビデのように、あなたにも告白して決別すべき罪があるかもしれません。その罪を告白するなら、神はあなたの人生を立て直そうと言ってくださいます。

4. 義の道に導いてくださる神 (3 節)

この個所のヘブル語は、「アドナイ・チドケヌ」です。

エレミヤ書 33 : 15-16

33:15 その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を芽ばえさせる。彼はこの国に公義と正義を行う。

33:16 その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの町は、『【主】は私たちの正義』と名づけられる。」

「義」という単語は聖書で非常に重要な言葉です。

その約 25%は詩篇で使われています。これは神を指す場合もあれば、信徒を指す場合もあります。またこの個所のように、単純に正しいことを指す場合もあります。

義の道とは正しい道です。

神は、ご自身の民を正しい道に導かれます。
羊は放っておかれると、ほぼ毎回間違った道に迷い出るようです。
それで、常に羊飼いが必要なのです。
ここで考えるべきことは、義の道とは具体的に何を指すかです。
神が私たちを義の道に導いてくださることについて理解を深めるうえで、これから話す3つの事柄が役立つでしょう。
第一に、義の道とは、私たちの人生のための神のみこころに沿った道です。
神は私たちをひとりひとり、ご自身のみこころにしたがって導いてくださいます。
その道を進むのはとても困難でたいへんなこともあります。
イエスの弟子たちでさえ、イエスがそばにおられるときに起こった出来事をすべて理解していたわけではありません。

ヨハネ 13 : 7

13:7 イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」

世の造り主であられるイエスが弟子たちの足を洗うというのはとても奇妙な話です。
しかし、イエスの行為の裏には、霊的な目的があったのです。
イエスが教えようとしておられたことを弟子たちが理解できたのは、後になってからです。
私たちも、人生をイエスに明け渡し、イエスの導きを信頼しても、常に問題のない平坦な道を歩めるわけではありません。
イエスは、私たちのためにあらかじめ物事を備えてくださっています。それらの事柄のために、イエスは私たちを備えてくださるのです。
それは将来の働きかもしれません。または、個人的な信仰の成長かもしれません。
私たちがイエスについて行こうとしているなら、イエスは、何の目的もなく私たちの人生に物事を起こされません。ですから、期待していたとおりに物事が運ばなくても、がっかりしないでください。
神は、ご自身の選びの民をエジプトから約束の地へと導かれましたが、その道のりは最短距離ではありませんでした。それは、彼らが途上でたくさんの教えを学ぶ必要があったからです。
人生を振り返って初めて、神が私たちを義の道に導いてくださったのだとわかることもあります。
第二に、義の道は常に、神の完全なみことばに則したものです。
詩篇を読むと、私たちクリスチャンの歩みにとって最善の導きは神のみことばから得られることがわかります。

詩篇 119 : 59-64

119:59 私は、自分の道を顧みて、あなたのさとしのほうへ私の足を向けました。
119:60 私は急いで、ためらわずに、あなたの仰せを守りました。
119:61 悪者の綱が私に巻き付きましたが、私は、あなたのみおしえを忘れませんでした。
119:62 真夜中に、私は起きて、あなたの正しいさばきについて感謝します。
119:63 私は、あなたを恐れるすべての者と、あなたの戒めを守る者とのともがらです。
119:64 【主】よ。地はあなたの恵みに満ちています。あなたのおきてを私に教えてください。

私たちが個人でも信徒同士の交わりの中でも神のみことばを読んで学び、そのみことばに従うなら、義の道に導かれます。
第三に、義の道は、牧者ご自身の模範に従う道です。義の道を歩みたければ、義なるお方、イエス・キリストに従わなくてはなりません。

ペテロ第一 2 : 21

2:21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。

イエスの足跡をたどるのは、決して容易いことではありません。けれども、神が必ず導いてくださる道です。そして、私たちにとって常に正しい道です。神は私たちのことを隅々までご存知です。そして、私たちにとって何が最善かをご存知です。さらに、神のみこころのために私たちを用いる最善の方法もご存知です。

マタイ 7 : 13-14

7:13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。

7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

5. そこにおられる神 (4 節)

次のヘブル語の単語は、「アドナイ・シャマー」です。

この単語をヘブル語から訳すと、「主はそこにおられる」という意味です。

これは、エゼキエル書 48 : 35 に登場します。

エゼキエル書 48 : 35

48:35 町の周囲は一万八千キュビトあり、その日からこの町の名は、『主はここにおられる』と呼ばれる。」

将来のいつか、「主はそこにおられる」という名の町ができます。これは、神のご臨在がその町にあるという約束です。

この個所は、未来に起こるイエス・キリストの千年王国期に神のご臨在がエルサレムにあることを預言していると考える聖書学者もいます。

しかし、神のご臨在の約束は現在の私たちのためにあります。

ダビデは羊飼いとしての過去の生活を振り返っていたのかもしれませんが。羊飼いなら、春には暗い谷を歩いて高い山へと羊を連れて行かなければならなかったはずで

雷の鳴る嵐や獣に遭うこともあったでしょう。死と隣り合わせだと感じたかもしれません。

ダビデはそんな状況でも恐れませんでした。神のご臨在を確信していたからです。

今あなたがイエスを信じているなら、神のご臨在の約束はあなたにも与えられています。

ヨハネ 14 : 15-18

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずで

14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。

14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。

ヨハネ 14 : 25-28

14:25 このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

14:27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

14:28 『わたしは去って行き、また、あなたがたのところに来る』とわたしが言ったのを、あなたがたは聞きました。あなたがたは、もしわたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを喜ぶはずです。父はわたしよりも偉大な方だからです。

イザヤ書 43 : 1-2

43:1 だが、今、ヤコブよ。あなたを造り出した方、【主】はこう仰せられる。イスラエルよ。あなたを形造った方、【主】はこう仰せられる。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの。

43:2 あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあなたとともにおり、川を渡るときも、あなたは押し流されない。火の中を歩いて、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。

聖霊は、すべての信徒に与えられる神の賜物です。聖霊を目で見ることができませんが、そのご臨在を実感できることがあります。それを感じられたときはとても励まされます。

ヨハネ 14 : 21

14:21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。」

ダビデには、慰めてくれるむちと杖がありました。

それは、自分と羊を守る武器でした。

杖は、先方を取っ手の付いた堅い棒です。

羊飼いは羊を守り、しつけるために杖を使いました。

現代の私たちにとって、むちと杖は神のみことばである聖書です。聖書は私たちが危険から守るために用いられます。また、間違った道に進もうとする私たちに叱ってくれます。

聖書を毎日読むと、大牧者イエス・キリストに守られます。

間違い、特に偽りの教えから守られます。偽教師は、毎日聖書を読まない人に対して威力を発揮するようです。人間の言葉の説得力は大きいですが、神のみことばの力には及びません。

私たちは日常的に聖書を読む必要があります。自分を安全に守り、訓練されるためです。

6. 聖なる者とする神 (5-6 節)

最後のヘブル語の単語は、「アドナイ・メ・カデシェ」です。これは、「聖なる者とする主」という意味です。

レビ記 20 : 7-8

20:7 あなたがたが自分の身を聖別するなら、あなたがたは聖なる者となる。わたしがあなたがたの神、【主】であるからだ。

20:8 あなたがたは、わたしのおきてを守るなら、それを行うであろう。わたしはあなたがたを聖なる者とする【主】である。

徳島県美馬市で開かれた昨年のリトリートに参加した人は、「聖化」という単語をもうご存知でしょう。これは、神に用いられるために取っておかれるという意味です。イエスが私たちに救われたとき、神は私たちをご自身の御用のために取っておかれます。

私たちは、地上における神の器なのです。

5 節でダビデは、自分の人生に神の油注ぎがあると確信していました。

私たちの人生に働かれる聖霊にゆだねるなら、神は私たちをイエスに似た者とすることができます。100%完璧でなくても、私たちが神に協力的になれば、神は私たちをイエスにもっと似た者と作り変えることができになります。

聖霊に満たされるとは、賜物や体験、目に見える祝福以上に、人生を神のご支配にゆだねることです。

私たちには、全生涯に渡って、神のきよめの業が必要です。

ですから、詩篇 23 篇はすべての信徒にとって全人生のための詩篇なのです。

神の聖霊が今、そのご臨在によって私たちに励ましてくださいますように。
神のご臨在の中では、喜びが満ちているからです。（詩篇 16 : 11）